



ACCREDITED  
2009

# 学校法人徳島城南学園 徳島工業短期大学 機関別評価結果

平成22年3月18日  
財団法人短期大学基準協会

## 徳島工業短期大学の概要

設置者	学校法人 徳島城南学園
理事長名	近藤 孝造
学長名	山本 哲彦
ALO	近藤 孝造
開設年月日	昭和48年4月1日
所在地	徳島県板野郡板野町犬伏字蓮花谷100

### 設置学科及び入学定員(募集停止を除く)

学科	専攻	入学定員
自動車工業学科		110
	合計	110

### 専攻科及び入学定員(募集停止を除く)

専攻科	専攻	入学定員
専攻科	車体整備工学専攻	20
専攻科	自動車工学専攻	5
	合計	25

### 通信教育及び入学定員(募集停止を除く)

なし

## 機関別評価結果

徳島工業短期大学は、本協会が定める短期大学評価基準を満たしていることから、平成 22 年 3 月 18 日付で適格と認める。

## 機関別評価結果の事由

### 1. 総評

平成 20 年 6 月 10 日付で当該短期大学からの申請を受け、本協会は第三者評価を行ったところであるが、評価の結果、当該短期大学は、自らの掲げる教育理念の実現及び教育目標の達成に向けて順調に進捗しており、本協会が定める短期大学評価基準を満たしていると判断した。

上記の判断に至った事由は、おおよそ次のとおりである。

当該短期大学の建学の精神は「人づくり」であり、教育理念は「建学の精神に則り、品性の向上を図り、自発的に社会に貢献できる人間性を養い、技術革新が著しい自動車産業界になくってはならない人材を育成する」こととしている。この精神は学生及び教職員に共有され、教育課程にも生かされている。また理事長、学長が当該短期大学の現状を的確に把握し、将来的な展望を持っている。これを教職員に教授会や職員会議を通じ経営戦略の理念として、あるいは教育改革の理念として伝え、リーダーシップを発揮している。

当該短期大学は国土交通省認定の自動車整備士養成施設でもあり、自動車関連のいくつかの資格が取得可能である。それゆえに、必修科目が比較的多いが、教養科目や専門選択科目も豊富に用意され、学生の多様なニーズにこたえられるものとなっている。また授業方法や内容についても、学生の動機付けへの配慮が積極的になされており、興味を持って学習できるように工夫されている。

教育の実施体制においては、質の高い教育を提供できる教員数を擁しており、特に、実験・実習用車両として常に新車を用意し、時代に対応する態勢がとられている。

教育目標の達成への努力として、自動車整備士の資格取得に対する意欲を維持するため、基礎学力を補い、モチベーションの高揚を図る点に的を絞った導入教育から始めている。また企業からのヒアリングの結果を反映させた「キャリアデザインⅠ・Ⅱ・Ⅲ」といった卒業後をみすえた科目を整備している。マークシート・リーダによる学生個々の習熟度を分析し、成績評価において合格点に満たない学生に対して補習授業と再試験を行うなどきめ細やかな学生支援体制がとられている。

研究活動については、教育活動や様々な業務などで多忙の中にあって、十分な成果をあげている教員もみられる。また、組織的にも学生に直接かかわる教材開発、指導法に関する研究が積極的に行われ、学内での研究発表会の開催、紀要への投稿義務付けなど、研究成果の発表に力が注がれている。

地域の高等学校が参加する電動カート性能評価会、四国 EV ラリーへの会場提供、

民間企業からの外部委託試験の協力、公開講座など、当該短期大学の特長を生かした地域貢献活動が行われている。継続的に留学生を受け入れるなど国際交流の取り組みが積極的に行われている。

一級自動車整備士試験を目指す教員に対しては1年間担任を免除するなど、教員の資質向上に努める体制を取っている。また、教育職員と事務職員が協力する職場作りが行われている。

平成5年度より自己点検・評価委員会の規程を整備し、さらに平成16年度、20年度に社団法人徳島県自動車整備振興会の外部評価を受け、改善事項や指摘事項に対して、将来構想委員会において問題解決に取り組んでいる。

## 2. 三つの意見

本協会の評価のねらいは、短期大学教育の継続的な質の保証を図り、加えて短期大学の主体的な改革・改善を支援して、短期大学教育の向上・充実に資することにある。そのために、本協会の評価は、短期大学評価基準に基づく評価、すなわち基準評価的な性格に加え、短期大学の個性を尊重し、短期大学教育の向上・充実に資する評価、すなわち達成度評価的な性格を有する。前述の「機関別評価結果」や後述の「領域別評価結果」は短期大学評価基準に従って判定されるが、その判定とは別に、当該短期大学の個性を尊重し、短期大学教育の向上・充実に資する観点から、本協会は以下の見解を持つ。

### (1) 特に優れた試みと評価できる事項

高等教育機関として短期大学が有すべき水準に照らしたとき、本協会は、当該短期大学の取り組みのうち、以下に示す事項については優れた成果をあげている試みや特に特長的な試みと考える。

#### 評価領域Ⅲ 教育の実施体制

- 勉学意欲を高めるために、先端の実習用自動車を導入したり、各教室にカットモデルや自動車部品などを配置している。

#### 評価領域Ⅳ 教育目標の達成度と教育の効果

- 自動車整備士試験の合格率向上対策が組織的・具体的に講じられている。「キャリアデザイン」の開講による意識付けと共にマークシート・リーダを活用した学生個々の習熟度の分析がなされている。

#### 評価領域Ⅴ 学生支援

- レベルに応じた選択授業や再試験のための補習授業を行うなど、個々の学生に対応した学習支援が積極的に実践されている。特に入学時における、基礎学力不足を補うための授業体制として、学生3人に対して教員1人を配置し、短期間で専門科目になじめるように配慮している。

- 学習の動機付けのために整備大会や EV（電気自動車）フェスティバルなどの行事への積極的な参加を勧め、また、学生に対する様々な表彰制度が用意されている。

#### 評価領域Ⅶ 社会的活動

- 地域の高等学校が参加する電動カート性能評価会、四国 EV ラリーへの会場提供、民間企業からの外部委託試験の協力、公開講座など、当該短期大学の特長を生かした地域貢献活動が行われている。継続的に留学生を受け入れるなど国際交流の取り組みが積極的に行われている。

#### 評価領域Ⅷ 管理運営

- 一級自動車整備士試験を目指す教員に対しては 1 年間担任を免除するなど、教員の資質向上に努める体制を取っている。また、教育職員と事務職員が協力する職場作りが行われている。

#### 評価領域Ⅸ 改革・改善

- 平成 17 年度より定期的に自己点検・評価報告書を公表したり、さらに平成 16 年度、20 年度に社団法人徳島県自動車整備振興会の外部評価を受けるなど積極的に改革・改善に取り組んでいる。

### （2）向上・充実のための課題

本協会は、以下に示す課題などについて改善がされれば、当該短期大学の教育研究活動などの更なる向上・充実が期待できると考える。なお、本欄の記載事項は、各評価領域（合・否）と連動するものではないことにご留意願いたい。

#### 評価領域Ⅵ 研究

- 紀要への投稿義務付けがなされている一方、様々な業務により、十分な研究時間が確保できない状況にある点について、組織的な取り組みによりこれを改善することが望まれる。

#### 評価領域Ⅷ 管理運営

- 教員の研究活動推進の観点から事務処理等の兼務について適切な調整を図ることが望まれる。

### （3）早急に改善を要すると判断される事項

以下に示す事項は、問題・課題などが深刻であり、速やかな対応が望まれる。

なし

### 3. 領域別評価結果

各評価領域の評価結果(合・否)を下表に示す。また、それ以下に、当該評価領域を合又は否と判定するに至った事由を示す。

評価領域	評価結果
評価領域Ⅰ 建学の精神・教育理念、教育目的・教育目標	合
評価領域Ⅱ 教育の内容	合
評価領域Ⅲ 教育の実施体制	合
評価領域Ⅳ 教育目標の達成度と教育の効果	合
評価領域Ⅴ 学生支援	合
評価領域Ⅵ 研究	合
評価領域Ⅶ 社会的活動	合
評価領域Ⅷ 管理運営	合
評価領域Ⅸ 財務	合
評価領域Ⅹ 改革・改善	合

#### 評価領域Ⅰ 建学の精神・教育理念、教育目的・教育目標

当該短期大学の建学の精神は「人づくり」であり、教育理念は「建学の精神に則り、品性の向上を図り、自発的に社会に貢献できる人間性を養い、技術革新が著しい自動車産業界になくてはならない人材を育成する」こととし、人間性を基盤にした自動車産業界に有為な人材を育成することとしている。

また、建学の精神及び教育理念は、学祖の教育哲学を項目別に列挙した学園訓として、当該短期大学本館正面玄関に掲げられており、学生便覧等の印刷物にも掲げられている。

学生には、入学時のオリエンテーションや特別授業などで、また教職員には学年当初の職員会議等で講話として紹介されている。

#### 評価領域Ⅱ 教育の内容

当該短期大学は国土交通省認定の自動車整備士養成の施設でもあり、建学の精神及び教育目標に基づき、教養科目や専門科目が充実している。また意欲的に教育課程の改善がなされており、人づくりと自動車産業人を育成するにふさわしい教育課程となっている。

自動車整備士養成の短期大学の性格上、これに関連したいくつかの資格も取得できる配慮がなされており、また必修科目も比較的多いが、選択科目も豊富に用意されており、学生の多様なニーズにこたえられるものとなっている。

授業内容等については、シラバスにより、学生に分かりやすい表現で示されており、また評価方法や教育方法も明らかにされている。

### 評価領域Ⅲ 教育の実施体制

教員組織等が整備され、自動車整備士の養成校として実習等を含む教育課程を維持し、十分質の高い教育を提供できる教員数を擁している。

それぞれの授業を行うにふさわしい講義室、演習室、実験・実習室等の教育環境が整備・活用されている。図書館は、学生が利用できる図書として、授業等の参考図書が整備されているが、今後は鋭意、資源数や情報発信機能の充実を期待したい。

自動車整備士の養成校として、エコカーである電気自動車の整備実習対象に先端の実習用自動車を導入している。また整備・性能評価の実習用にコンピュータ制御の教材など実習環境を整備し、学生の実習で積極的に活用されている。

### 評価領域Ⅳ 教育目標の達成度と教育の効果

教育目標の達成への努力がみられる。自動車整備士の資格取得に対する意欲を維持するため、基礎学力を補い、モチベーションの高揚を図る点に的を絞った導入教育から始めている点は評価できる。マークシート・リーダを活用した学生個々の習熟度の分析、また成績評価において合格点に満たない学生に的を絞り補習時間を与えた後に再試験を行う制度の導入など、きめ細かな教育指導体制がある。また卒業生とのつながりは、専門就職の割合が高い当該短期大学においては、現場の声を聞く絶好の機会であり、系統的な情報収集の実施が望まれる。

### 評価領域Ⅴ 学生支援

入学に関する支援については、必要な情報が短期大学案内、ウェブサイトなどを活用し明示され、入学予定者には説明会を開くなど、きめ細かな配慮がなされている。

学習支援としては、学習の動機付けに力を入れるとともに、個別の学習指導が行われている。生活支援については、クラス担任制がとられ、さらにどの教員も学生とかわる組織的な支援体制が整えられているが、保健室、カウンセリング体制のより一層の充実が望まれる。進路支援については、進路支援室を中心に積極的な支援が行われ、毎年高い就職率を維持している。

当該短期大学は留学生の受け入れに積極的で、また社会人に対する支援体制の整備にも力が注がれている。

### 評価領域Ⅵ 研究

研究活動については、教育活動や様々な業務などで多忙の中にあって、十分な成果をあげている教員もみられる。また、組織的にも学生に直接かわる教材開発、指導法に関する研究が積極的に行われ、学内での研究発表会の開催、紀要への投稿義務付けなど、研究成果の発表に力が注がれている。

研究活動のための条件整備として、研究費についての規程、研究室、研修室が整備

されている。一方で、上記のとおり、教育活動や様々な業務のために十分な研究時間の確保が困難な状況にあることから、組織的な取り組みにより改善することが望まれる。

#### 評価領域Ⅶ 社会的活動

社会的活動への取り組みについては、当該短期大学の特長を生かした公開講座、保護者に対する公開授業、高大連携授業、様々なイベントへの参加等、積極的に推進されている。

学生の社会的活動については、授業時間の調整や取り組んだ学生への表彰制度を設けるなど、その活動を組織的に推奨しており、毎年恒例となっている学生たちによる交通安全キャンペーンなどが実施されている。

国際交流・協力への取り組みについては、長く留学生の受け入れを行ってきており、毎年中国の提携校へ教職員及び学生を派遣し、国際交流を行っている。

#### 評価領域Ⅷ 管理運営

理事長・学長はそれぞれ学校法人及び短期大学の運営について、適切なリーダーシップを発揮しており、教授会も定例外に頻繁に開催され適切に運営されている。

教授会の下部組織である委員会の数が規模の割に多く、複数の教職員が兼務しており、事務組織のほとんどの課長を教員が兼務していることから、教員の負担については今後の検討課題である。

就業規則等は適切に整備されているが、近年は業務量増大の傾向があり、限られた人材の中での工夫が望まれる。

#### 評価領域Ⅸ 財務

財務運営は、おおむね適切に行われており、学校法人全体の余裕資金はあるが、定員充足率の低下が支出超過傾向を招いている。補助金の獲得や入学定員減等による収支改善に向けて取り組んでいるが、策定されている中・長期財務計画について、その実行・達成が今後の課題であり、今後の達成度による見直しも必要である。

#### 評価領域Ⅹ 改革・改善

平成 5 年度に自己点検・評価委員会の規程を整備し、随時点検・評価を行ってきており、各部署・教職員に適切にフィードバックし、さらにその成果を活用すべく将来構想検討委員会において課題解決に取り組んでいる。報告書については、平成 17 年から定期的に公表されている。

平成 16 年度、20 年度に社団法人徳島県自動車整備振興会の外部評価を受けており、その指摘事項に対して、改善努力がみられる。